

## 第2班

# 『19世紀前期ヨーロッパ生活絵引研究』

## 編纂共同研究

### (1) 共同研究員名

研究代表者：鳥越輝昭

共同研究員：小松原由理 熊谷謙介 ステファン・ブッヘンベルゲル

### (2) 研究目的

ヨーロッパの重要な諸都市について、19世紀前期における生活の様子を、非文字資料を中心に分析、比較検討して、絵引を作成することを目的とする。「ヨーロッパ」はこの場合、英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、イタリア語圏を指すものとし、取り上げる都市としては、ロンドン、パリ、ベルリン、ミュンヘン、ウィーン、ローマ、ヴェネツィアなどを考えている。「19世紀前期」は、およそフランス革命から1870年頃までの時期を指している。使用予定の主な資料は、この時期に作成された絵画・版画のうち、それぞれの都市の建築物、広場、街路、水辺、公園などを、そこに集まる人々とともに描き出している作品である。建築物や広場などの様子を、ヨーロッパ横断的に比較検討することにより、共通性と相違とを浮かび上がらせて、当時のヨーロッパの生活への洞察を得ることができるだろう。

### (3) 活動経過（目的達成のための方法、各年度の研究・調査経過、成果の公開状況等）

当研究班は、第2期の共同研究に際して、18世紀ヨーロッパの都市生活に関する絵引の刊行を最終目的としていた。研究は、基礎資料の収集と方法論の策定からスタートするものであったため、現実には、絵引の原稿作成、編集、校正を第3期中におこなわねばならなかった（鳥越、熊谷、ブッヘンベルゲル執筆。2014年12月入稿、2015年10月校了）。当該絵引は、2015年12月に、『18世紀ヨーロッパ生活絵引——都市の暮らしと市門、広場、街路、水辺、橋——』として刊行された。A4版、全223頁。同時代作成の絵画・版画を54点収録して、解説をほどこし、名称を示す。そして、この絵引の刊行を記念し、2016年3月に、公開研究会「絵画にみる18世紀ヨーロッパの都市——『18世紀ヨーロッパ生活絵引』出版を記念して——」を開催した（司会：鳥越。パネリスト：鳥越、ブッヘンベルゲル、熊谷。コメンテーター：小松原）。

その後、第2期の研究をふまえながら、第3期に直接かかわる研究にとりかかり、研究会を2回開催した。「ヴェネツィア1797～1895年——同時代の絵画と写真を参照しながら——」（鳥越、2016年4月）と「19世紀のミュンヘンについて」（ブッヘンベルゲル、2016年6月）である。

2016年9月には、熊谷が研究論文「パリは移動祝祭日」——18世紀パリの民衆的祝祭空間を中心に」（『非文字資料研究』第13号）を発表した。直接的には18世紀のパリを対象にしつつも、その後の展開を視野に入れた論文である。

2016年11月～12月には、エクステンション講座『ヨーロッパの都市と絵画・写真』の開催を計画し、広告した。「18世紀版画のなかのローマと今のローマ」（鳥越）、「絵画・写真で見るベルリン——黄金の20年代からナチズム前夜へ」（小松原）、「絵画・写真で見る消えたパリと残るパリ」（熊谷）、「19世紀絵画・写真のなかのヴェネツィア」（鳥越）の全4回である。しかし、聴講希望者が十分に集まらず、実施に至らなかった。

なお、メンバーは各年度に研究対象都市への調査出張をおこない、資料を収集した。2014年度に2名（熊谷、ブッヘンベルゲル）、2015年度に2名（熊谷、ブッヘンベルゲル）、2016年度中に2名（熊谷、小松原）である。

#### （4）研究成果（成果物、獲得された知見、収集資料の解題等）

成果物は3点。形式的には第2期の成果物2点と今期の成果物1点ということになる、『18世紀ヨーロッパ生活絵引——都市の暮らしと市門、広場、街路、水辺、橋——』（2015年12月）と、研究論文「パリは移動祝祭日」——18世紀パリの民衆的祝祭空間を中心に」（熊谷、『非文字資料研究』第13号、2016年9月）である。研究発表としては、『18世紀ヨーロッパ生活絵引』から見る都市の祝祭空間」（熊谷、国際シンポジウム「東アジアにおける非文字資料研究」、2016年7月2日、浙江工商大学東亜研究院）、「写真のポスト・トゥルース性——非文字資料としてのパリ・コミュニケーション表象」（熊谷、2016年度 第4回公開研究会「歴史研究と非文字資料研究の対話（2）——日本と台湾を事例に」、2017年3月4日、神奈川大学）が挙げられる。

獲得した知見としては、ヨーロッパの都市生活において広場がいかに重要な位置を占めてきたかについて、具体的な絵画・版画・写真資料に基づく認識を得たことが大きい。この認識に基づき、次期の共同研究では、広場を対象をしぼる予定である。

#### （5）今後の課題と展望（自己点検・評価）

ヨーロッパ都市の根幹をなしてきた広場について、絵画・版画・写真という非文字媒体を中心に分析するのは従来にない研究である。チャレンジングであるとともに、新たな発見が期待される。